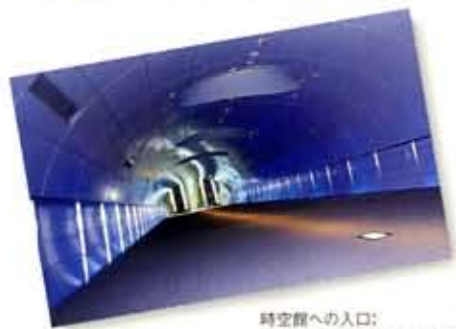


世界の海洋交流をはじめ、海上交通の要所として発展してきた大阪の「海の交流史」に触れられる『なにわの海の時空館』。昨年7月の開館以来、海・船・港と人々の関わりを通して、私たちを楽しい海の時空トリップへと導いてくれる話題のスポットです。

今回は、時を超えてなお息づく先人たちの知恵を、多彩なアトラクションやパフォーマンスで見て、触って、体感できる、ユニークな海の時空館の魅力をたっぷりご紹介します。



時空館への入口：
海底トンネルでつながっています

見て、触って、体感できる！
世界の海洋文化と、大阪の海の歴史絵巻

なにわの海の時空館



レポーター
福本 聡子

海にぼっかり浮かぶガラスドームの時空館

WTCやATC、海遊館など人気のスポットがひしめく大阪ベイエリア、咲洲。その中でも一際目を引くのが、海にぼっかりと浮かんでいるガラスドームの建物。それが『なにわの海の時空館』です。

海のドームへは、まずエントランスから約60メートルの海中道を渡って中へと入って行きます。海底をイメージさせる神秘的なブルーの照明、天井は等間隔でガラス張りになっていて、幸運にも大阪湾の魚の姿を見つけました。この夏、スキューバダイビングのライセンスを取得した私にとっては、心踊るお出迎えとなりました。

ドームの中(展示棟)の観覧は4Fの“海がつなぐ世界の文化”から始まります。ここでは歴史に大きな役割を果たした海の交流史を、航海術や交易品、アートなどを通じて紹介しています。特に私が印象に残ったのは、フィギュアヘッド(航海の安全と乗組員の無事を祈り帆船に配される船首像)。1983年に父に連れられて行った大阪世界帆船祭りに参加していた船のものが、展示されていたからです。

3Fでは“大坂みなとの繁栄”で、「天下の台所」大

坂の成り立ちと発展や、当時の海運の仕組みなどを紹介しています。2Fは江戸時代に活躍した菱垣廻船の実物大展示「浪華丸」を中心に、復元の様子や紹介や資材道具などの一部を、手にとって見ることができます。

リアル体験で海と船の楽しさを思いきり満喫

『なにわの海の時空館』では、体験型の展示が多く見られます。私がチャレンジしたのは、最新シュミレーション技術を使った、世界初の本格的ヨットシュミレーター。思った以上に操作は難しかったけれど、リアルなヨットセーリング感覚を楽しむことができました。さらに海洋アドベンチャーゲームで再現した「菱垣廻船」の船員体験や、大坂みなどに堆積する土砂を取り除く工事の川浚え(かわざらえ)に用いられた「鋤簾(じょれん)」という道具を使って、当時の工事の厳しさを知りました。

1Fではハイビジョンの3Dスーパーチャルシターとシュミレーションシアターで、海とのふれあいや航海の素晴らしさを、臨場感溢れる演出で体感することができます。また、当時の姿そのままの船乗りが「菱垣廻船」の船内を案内したり、町人が江戸時代の人々の暮らしぶりや習慣を紹介したりと、多彩なパフォーマンスで来館者を喜ばせてくれます。

町衆の知恵が支える、大阪の発展の歴史

「太古から人は、海から様々な知恵を学び、それを暮らしに活かし、優れた文化を輩出してきました。ましてや水の都・大坂の人々の生活においては、港や船との関わりは切っても切れないものです」。関係者の方のお話の通り、港とともに大阪は発展してきた都市であり、その歴史と文化に育まれた町衆の知恵は、今なお私たちの暮らしに息づいていることがよくわかります。

『なにわの海の時空館』は、都市の繁栄に欠かせない人の力の大切さを教えてくれる、重要な場だと思います。もっと多くの人々に見学に来てもらえるように、周辺環境もより美しく整備して、夢のあるさらに楽しいエリアになることを期待します。



●交通:『なにわの海の時空館』へは、
大阪市営地下鉄中央線・OTS線「コスモスクエア駅」1号出口、
四つ橋線・ニュートラム・OTS線「トレードセンター前駅」3号出口、
●ホームページ <http://www.jkukan.or.jp>